



【クリスマスの起源】 「新キリスト教ガイドブック」より

クリスマスはキリストの降誕を喜び祝う日です。初期の教会では1月1日、1月6日、3月27日などに祝っていましたが、四世紀ころから当方教会では1月6日、西方教会では教皇ユリウス1世(位337~352)の時に12月25日と特定されました。その理由は、教会の異教の祭りとの戦いがありました。

当時、ローマ人やゲルマン人の間には、冬至の日を太陽の誕生日として祝う祭りが盛んでした。夜12時を過ぎると、神殿の灯という灯をいっせいにつけて太陽が帰ってきたと叫び、いけにえをささげ、祝いました。これはゲルマン人のユール祭、ローマ人のミトラス教として知られています。そこで教会は、人々に真の神の存在を知らせ、偶像礼拝から離れさせるために、同じ頃の12月25日を「義の太陽キリストの日」としてクリスマスと定めたのです。このようにクリスマスには、偶像との聖なる戦いの原点があります。

【今週の暗唱聖句】 マタイ1章21節

この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。

これらの言葉には福音のエッセンスが凝縮されている。つまり、救い主の来られる目的が、压制や戦争、飢餓、病からの救いではなく、人間を、人間一人一人が内側に持っている「罪」から救うために来たということである。

私たちクリスチャンは世の中の全ての問題の解決には人間の内的な「罪」が取り扱われなければならないことを知っているが、現代社会はこの「罪」の問題を極力見ないようにする。人間の過った選択を環境の所為にし、環境を変えれば人間は変われると信じ、莫大な費用をかけて更生施設を建てる。犯罪を犯した時には精神錯乱状態で責任能力がなかった、となればセラピーを勧める。しかし多くが再び同じ犯罪を繰り返す。一向に刑務所が小さくならない理由はまさにこの本質、つまり人間が罪人である、という事実から目をそらしているからなのである。

私たちは問題解決は主の十字架にあるという確信をしっかりと握り、キリストの身体として、先ず身近な方々の救いのために祈り、外に出て行って福音を語り、一人ずつ主の元に連れ戻す働きを続けて行きたい。



【先週のメッセージより】

アモス3:7「まことに、神である主は、そのはかりごとを、ご自分のしもべ
預言者たちに示さないでは、何事もなさない。」

と語られたようにキリストの誕生は旧約聖書全体を通して予告されたことであつた。
この図はメシヤ預言や予型（あらかじめ示した型）のごく一部を示したものである。



● **原始福音** 創3 かかるとに噛付く蛇=十字架
頭を砕かれる蛇=再臨

● **ノアの箱舟** 創6-7, マタイ24 イスを通して終末の裁きを免れる型

● **アブラハムと一人子イサク** 創12~ 一人子イサクは神の子イサの型
モヤ山でのイサクの犠牲は十字架の型

● **王権はユダを離れず** 創49 ユダ部族より王達が出る。
遂にメシヤ=シロが来て国々が彼に従う。ヤコブはこの時、ろば、ふど
う、血のイメージを幻の中で見る。

● **モーセ：もう一人の預言者** 申命記18 後の時代に現われるはず...

● **ルツ記** ルツはダビデ王
救い主の先祖になる

● **ダビデ詩篇**
2篇：メシヤ=神の子、16篇：メシヤの復活 22篇：十字架のイエス
35篇：偽証、憎しみ、 118篇：メシヤは躓きの石となる
132篇：メシヤはダビデの子孫から

● **イザヤの預言** 5章：誕生はバツレヘム

7章：処女懐胎
9章：ガリラヤの光栄
9章：男子の誕生、永遠の主権の付与
11章：国々がエッサイの根に従う
35章：目も耳もいやされ、開かれる
40章：エリヤ（先唱者ヨハネ）預言
42章：メシヤは神のしもべ
49章：全世界の救い
52-53章：苦難のしもべの処刑と復活

● **ダニエル** 7章：人の子が雲に乗って
やって来る

● **マラキ** 3章：神殿に突然やって来る

● **ミカの預言**

5章：誕生はバツレヘム

● **ゼカリヤ**

9章：ロバに乗って
やって来る
11章：銀貨30枚
13章：弟子に
見捨てら
れる

苦難のしもべ=十字架のイエス
栄光の王=再臨のイエス

イエス・キリスト誕生

旧約聖書のメシヤ預言

BC
AD

★預言を聞く者は神が語られたことは必ず実現することを心に覚え、背徳が進む時代にあつても「私と私の家とは主に仕える」という決意を崩さず、神に信頼して生きていく。

http://www.clarifyingchristianity.com/m_prophecies.shtml も是非参照！